コミュニティ気候アクション
リーダー育成・気候アクション
市民団体ネットワーク構築事業

コミュニティ気候アクションコンソーシアム（CCAC）

コミュニティ気候アクションコンソーシアムとは

コミュニティ気候アクションコンソーシアムとは

Pachamama Alliance

NPO PACHAMAMA ALLIANCE

・全世界向け育成・トレーニングプログラム開発・実行
・日本チームとの連携
・アマゾン熱帯雨林フィールドワーク企画・サポート
・アマゾン熱帯雨林・先住民保護活動

NPO法人 セブン・ジェネレーションズ

・各団体・プロジェクト全体マネジメント
・国内気候変動市民活動団体ネットワーキング事務局
・気候コミュニティアクショントレーニング実施
・効果検証（マイルストーン管理）

Seven Generations

TRANSITION JAPAN

NPO法人 トランジション・ジャパン

・国内気候変動市民活動団体ネットワーキングをサポート
・地域コミュニティにおけるコミュニティビルディングサポート
・国内コミュニティネットワークを利用した広報・イベント企画

Earthwisdom Japan

アースウィズダム・ジャパン

・アマゾン熱帯雨林フィールドワーク企画・実行
・熱帯雨林保護・先住民活動の日本での支援

市民気候ロビー ジャパン

・国内気候変動市民活動団体ネットワーキングをサポート・構築
・国内コミュニティネットワークを利用した広報・イベント企画

Citizens' Climate Lobby

私たちの目的とビジョン

Planetary Well-being

気候危機を解決し、次世代が
幸せに・健やかに生きていける地球を残す

気候危機を解決するリーダーを育成し、
ネットワークを構築する

つながり合うことでの強み

●10年を超える活動実績と全国・地域レベルでの有機的なつながり

- 100を超える地域のコミュニティネットワークと多様な人的リソース
- 市民・地域コミュニティレベルでの地産地消・サーキュラーエコノミーなどの実践

つながり合うことでの強み

25th Anniversary Pachamama Alliance

Transition Network.org

Citizens' Climate Lobby

FACING DIFFICULT TRUTHS
Climate Psychology Alliance

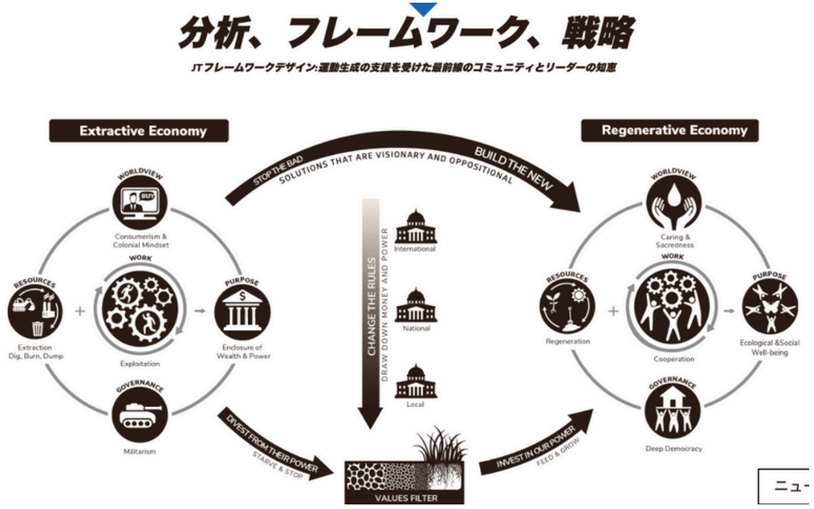
●地球規模の視野の体験とローカルな実践を両立する仕組み

パチャママ・アライアンス、トランジションタウンネットワーク、アマゾン熱帯雨林先住民とのネットワーク、シチズン・クライメート・ロビー・気候心理アライアンス（イギリス）

つながり合うことでの強み

●Just Transition=公正な移行・Climate Justice（気候正義）への知見と経験

コンソーシアムでは環境的持続可能性（気候危機など）の課題だけではなく、社会的公正や個人の精神的な充足全ての面を満たすことを理念として掲げており、Just Transition=公正な移行や気候正義の文脈も含め、統合的にトレーニングの中にプログラムとして織り込む知識・経験値を持っている



＊Climate Justice Alliance”公正な移行（Just Transition）”より

つながり合うことでの強み

●ビジョン・目的への高いコミットメントを持つリーダーとダイバーシティを体現する組織体制

・各団体の理事・運営・会員メンバー等の気候危機解決を目指すコミットメントの高さ

10年以上前から取り組んでいるメンバーが多数在籍

・多様なメンバー・組織体制

ジェンダーバランス・人種・企業人・行政・教育関係者から、第一次産業の農業・林業に関わる人、あるいは所在地も世界、日本全国大都市から地方都市・過疎地など色々な立場・場所から関わっている。

プロジェクト概要

【対個人】

コミュニティ気候アクションリーダーの育成

【対組織】

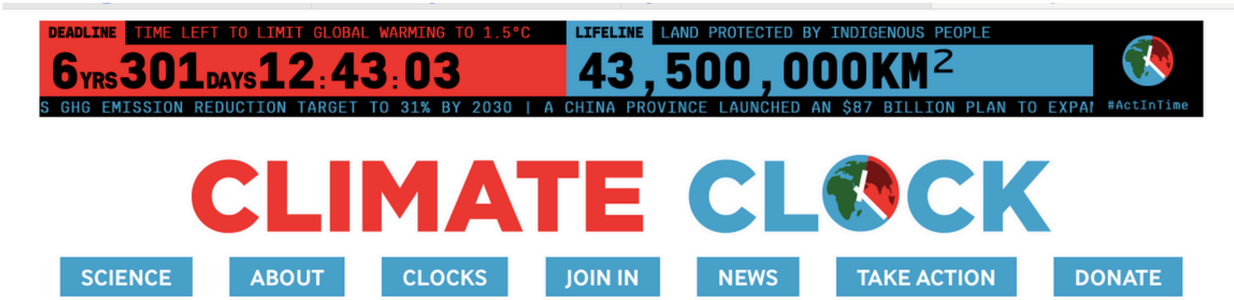
“気候アクション市民団体ネットワーク”の深化・進化

現状①　Planetary-Wellbeing

THE GLOBAL GOALS

- ”気候危機”は人類共通のアジェンダに
- 解決策はすでに明らかで、技術もあり、政治が取り組むべきアジェンダも証明されている

現状①　Planetary-Wellbeing



だがまだ大半の人々が動き出していない…

課題

意識のパラダイムチェンジが必要

誰かがやって
くれるだろう

私の問題
ではない

何をしたら
良いかわからない

もう間に合わないから怖い
考えたくない

「地球の資源は有限で、自分たちの
暮らしを今すぐ変えていく必要がある」

「気候危機は解決することができる」

「私たちにはその力がある」

“全員が主体者であり、リーダーである”

2023-24年度ネットワーキングを経て見えてきた課題
Societal-Wellbeing ＆ Personal-Wellbeing

▶見えてきたネットワーキング団体共通課題

【組織マネジメントへの意識の低さ（対外的活動が重要視される）】

- 個別具体的なアクション中心で、バーンアウトが頻発している
- 同じ志を持ったメンバー同士で集まっているが、人間関係の軋轢が起きる
- 信頼や心理的つながり感を築き、維持することに対する意識が薄い
- 承認・褒める体験・文化の欠如
- 心理的安全性を保って大切な組織課題について対話する場の少なさ（忙しさ・組織文化etc.）

【ジェンダー・世代間格差・DEIJ意識の低さ】

- 多世代間の交流・繋がりが少ない
- DEIJ意識の低さ（特に年齢・地位の高い男性）ゆえに、ユース世代・ジェンダー間の意識のギャップが見られる
- それにより活動内容が限定される、モチベーションの低下、活動の広がりに
- 影響が出ている（LGBTQなど他の活動とのつながりを広げることができない）

2023~24活動実績

コミュニティ気候アクションコンソーシアムリーダーシッププログラムの提供と横断的市民活動団体のネットワークの土台作りに取り組みましたした

●気候変動団体のネットワークの進化と深化

- 月1回の**定期的オンラインでのMTG開催**・参加
- 各団体のコラボレーションの働きかけ（コンソーシアム外の**3団体リーダーとCAONフォーラム共創企画**）
- 2023年・24年4月アースデイにてCCAC団体として出展・チラシ配布と参加団体との交流・5月より**『ファンドレイジング講座』**6回コースを開催。全国規模・地域活動含む**21団体50名**近くの方が参加
- ネットワーク内の団体リーダーに組織・関係性の**課題ヒアリングインタビュー実施**
- **コミュニティ気候アクション団体ネットワークフォーラム（CAONF）vol.3開催**
  （＊詳細次ページ）

2023~24活動実績

●気候変動団体のネットワークの進化と深化

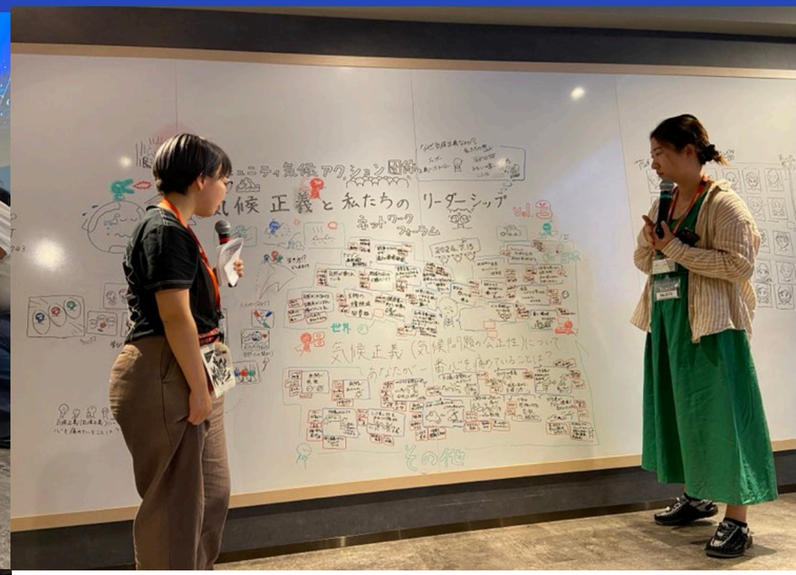
- 各団体のコラボレーションの働きかけ（コンソーシアム外の3団体リーダーとCAONフォーラム共創企画）
- コミュニティ気候アクション団体ネットワークフォーラム（CAONF）vol.3開催（＊）

以下詳細↓

- 7月15日東京にて『気候正義と私たちのリーダーシップ』をテーマにディスカッションを行う
- 1日のイベント「コミュニティ気候アクション団体ネットワークフォーラム（CAONF）vol.3」を開催
- 20団体6社からお申し込みいただき、38名参加（リピート参加者＆新規参加者）
- 終了後の振り返り会も3回オンラインで開催し、継続的なつながりとネットワークやフォーラムに関するフィードバック
- 次回は10月に第4回目フォーラム開催予定です

【参考：CAONF開催報告】https://sevengenerations.or.jp/2024/07/30/caonf202407report/

2023~24活動実績



当日の様子＆振り返りmtg👇

2023~24活動実績

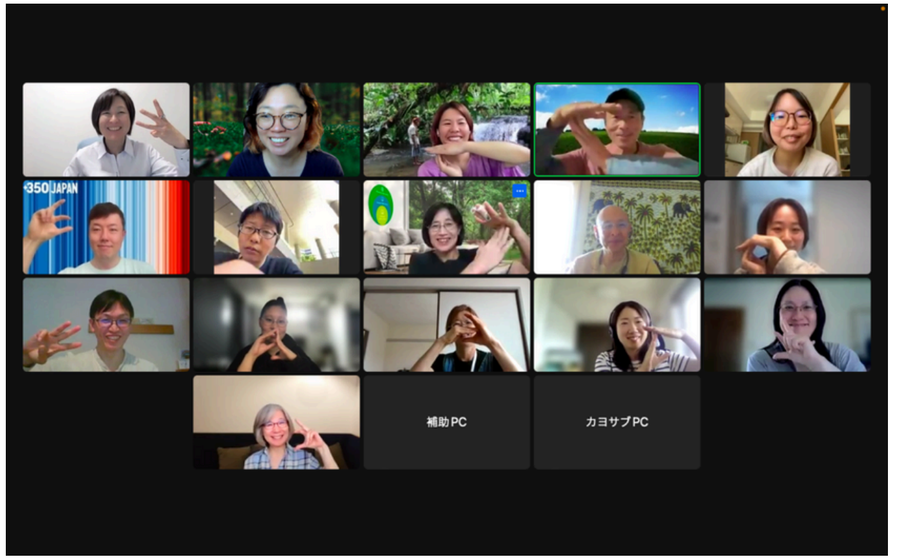
●DEIJ（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン・ジャスティス）課題への取り組み

2024年度は23年度で浮き彫りになった社会・団体活動におけるDEIJ（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン・ジャスティス）課題に取り組みました

- 5月25日にオンラインにて各団体のリーダー/オーガナイザー層向けに『エクイティの鍵DEIJワークショップ』をコンソーシアム外の団体（CRPジャパン）と共催
- 参加してくれた団体から、団体内部・ボランティアの人々を対象に実施したいとの要望があり、次回11月9日によりオープンな形での開催
- 参加した中から、1団体は9月に内部向け自主開催へと展開、参加企業において6月に社内実施の運びとなりました

【参考：DEIJワークショップ開催報告】

- 6月ローカリゼーションデイ日本に「気候変動×ローカル×ジェンダー」テーマで登壇。60名超える参加者



2023~24活動実績

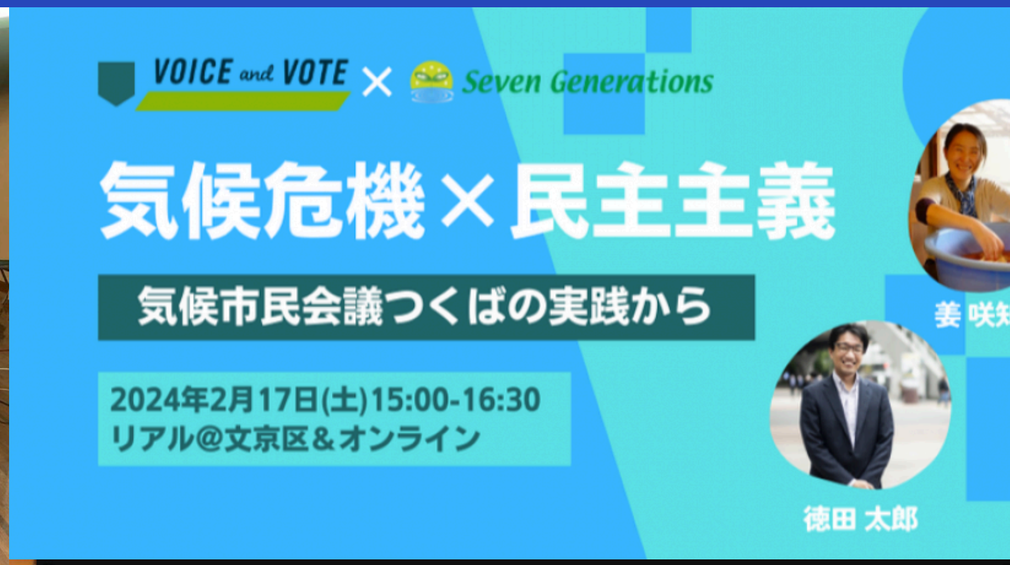
●コミュニティ気候アクションリーダーシップ育成プログラム

- 2月ユース世代（10歳-29歳）の2泊3日の合宿の企画・開催
- 4月・9月より9週間にわたるリーダー育成のためのオンラインのコースの実施
- 地方で複数回のリアルでのワンディプログラム開催
- 8月・11月（予定）に合宿形式での2日間のプログラム提供
- オンラインで気候変動/リーダーシップにまつわるテーマ別の講座（リーダーシップ、コミュニティ、コミュニケーション、各回のリーダーたちを招いての講演など）を毎月複数回実施
- 気候変動に関わるリーダーへの個人コーチングの提供など、継続的プログラム提供を並行して続けております

【参考：以下のブログをご覧ください】
https://sevengenerations.or.jp/blog/

2023~24活動実績

チェンジ・ザ・ドリーム シンポジウム
Pachamama Alliance
Seven Generations


VOICE and VOTE × Seven Generations
気候危機×民主主義
気候市民会議つくばの実践から
2024年2月17日(土)15:00-16:30
リアル@文京区＆オンライン
姜 咲知
徳田 太郎

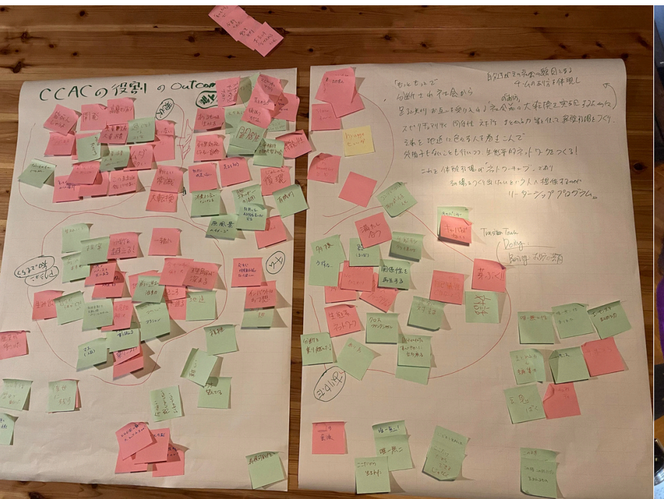
Elizabeth Stanton
[interpreter] Azumi Nozaki
Pachamama Alliance Zoom
jeraldleimenstoll
Jessica Lusty (she/her)
Erik Friend
Priscilla
[interpreter] Akane
Sarah Heffron she/her
★Takanori Inukai
★Akemi Takeuchi
[interpreter] Megumi
donna luckey
★Saul Kohei Kuwahara
Will Grant
Lindsey
Sara Moss
Kate Kerman (she,her)
Maisa Arias Urizar
Winona Victery Fairfield, CA
★Kaku Suzuki
Barbara Mullins (she/hers)
Emmanuelle Chiche
Gabriel Evangelista
★kunikatashizue
1/2
ミュート
ビデオの停止
セキュリティ
参加者
チャット
画面共有
レコーディング
字幕を表示
ブレイクアウト ルーム
リアクション
日本語
アプリ

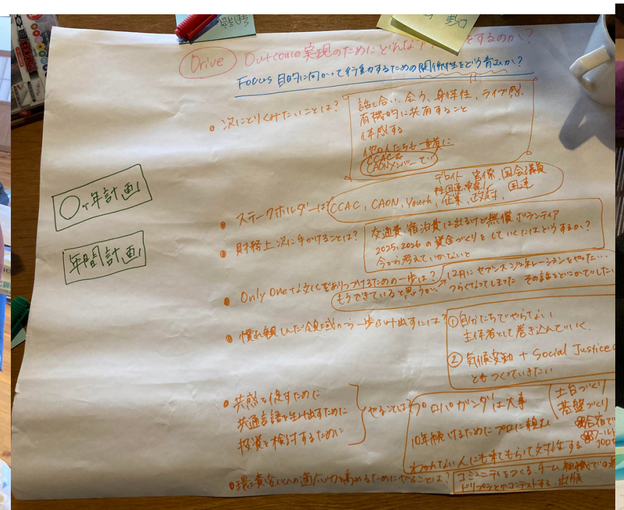
2023~24活動実績

●CCAC組織基盤強化の取り組み

コレクティブインパクトを目指すコンソーシアムとして、普段は別々に活動をしている団体・リーダーたちが
共通のアジェンダ・CCAC組織のストーリー・目的・ゴールを明確にするために、以下のようの取り組みを行いました

- 1泊2日の合宿を神奈川県・藤野で行いました(3月)
- 合宿にてSOUNDカードというツールを用いて、コンソーシアムの**Status(現状認識)**、**Outcome(ビジョンの策定)**、**Understand(課題の深掘り)**、**Negative Check(懸念事項の確認)**、**Drive(具体的解決策)**というテーマを2日間かけてディスカッションし、24年度以降の具体的な実施策を導き出しました
- ビジョン・ミッションをCCAC外部に向けて伝える際の言語化を、戦略的PR・広報の専門家に依頼し、ディスカッションを行い、作成中。全員で**CCACという組織のストーリー作り**に取り組んでいます。





【対個人】
コミュニティ気候アクションリーダーの育成プロジェクト

ターゲット（想定する参加者）

幅広い中間層にあたる市民＆
すでに活動を始めている市民

THE GLOBAL GOALS

モヤモヤ
不安

興味がない/
気候変動否定

迷っている
誘われれば
参加する

心配・不安を感じているが、
活動を始めていない人たち

すでに活動し
ている人たち

コミュニティ気候アクションリーダーとは

レベル4：
経済・政策・法律

レベル3：
コミュニティ・
地域行政

レベル2：
家族・友達

レベル1：個人

レベル3：コミュニティ・地域行政

自分とつながりのある地域・学校・行政・職場
などで行動を起こすリーダー

- コミュニティに働きかけ、仕組みを作ることで、自分の生活を変えるだけでなく、数百・数千の人に影響
- 前例となる”うちの学校/自治体/職場でもできる?”
- 副業的に取り組める

（2）コミュニティ気候アクションリーダ育成プログラム一覧

プログラム	時期/回数
入門ワークショップ毎月開催（eラーニング含む）	12回以上
啓発セミナー/映画上映会	6回
9週間集中オンラインコース	1月・6月/2回
10週間のアクショントレーニングコース	4月/1回
全世界のコミュニティでのオンライントレーニング	10回
入門ワークショップファシリテーター養成	1回
地域コミュニティビルディング基礎トレーニング	1回
アマゾン熱帯雨林フィーリドワーク	1回
企業・大学でのワークショップ/プログラム開催　3社	4月～
プログラム修了リーダーの継続的メンター/コーチング	4月～12月

全世界
のべ3000人
リーダー育成

育成プログラムの特徴

知る
学ぶ
感じる

深める・
つながる

実践・
アクション

ふり返る・
支え合う

- 対話・体験型プログラム
- プロジェクト・ベースドラーニング
- ピアラーニング（仲間同士で学び合う）
- コミュニティ＆継続的メンター・コーチング
- 具体的な解決策提示・地域活動の実践知
- 活動の基盤となるBeing（あり方）も重視

”私ひとりじゃない、世界にこんなに仲間がいるんだ!”
継続的につながり合うこと自体がエンパワメント

修了者活動事例

など、他多数・・・

半田志野さん

（2021年参加）

・地元神奈川でビーチクリーン

・アートイベント主催など

⇨気候変動への危機意識から参加

【修了後】

✅ゼロエミッション施策提言

・住んでいる自治体にゼロエミッション施策提言グループ立ち上げ、提言実施

・地元紙にて活動リーダーとして記事掲載

✅ゼロエミッション逗子の立ち上げ・定期的活動継続（2022）

・市長・市議会議員（17名中7名参加）を招いて歌川学氏、気候学博士大岩根氏を招いてのキックオフ勉強会イベント実施（4月）

・環境活動家谷口タカヒサさんを招いての地元イベント

・クリーンセンター見学・勉強会実施

野田浩平さん

（2020年参加）

・フィリピンでスクール経営

・日本帰国後、コンサルティング事業

⇨気候変動への危機意識から参加

【修了後】

✅シチズンズ・クライメート・ロビー・ジャパン立ち上げ（2020）

・英語話者であることを生かして、Citizens' Climate Lobby(気候正義を鑑みた炭素税とキャッシュバック政策の導入を目指す世界的な活動団体）へアプローチ

・日本チャプターを立ち上げ、組織化

・ロビー活動・議員を招いての勉強会・講演活動継続

✅気候心理アライアンス・ジャパン立ち上げ（2021）

・気候変動の活動に関わる人々の心理的不安やバーンアウトへの危機感から、英国基盤の気候心理アライアンスにアプローチ。日本チャプターを立ち上げ

・海外の気候心理学有識者を招いての講演活動、研究継続。

✅COP27（2022年・エジプト）参加予定

・気候変動に関わる団体に広くつながり、ネットワークを築き、各団体相互交流の働きかけを促進

・COP27（国連気候変動枠組条約締約国会議）参加資格を得る

・国際的な情報を収集・研究・発信予定

COP27 SHARM EL-SHEIKH 2022 EGYPT

俵山美絵さん

（2018年参加）

・東京から移住し石垣島在住

・獣医師

⇨気候変動への危機意識から参加

【修了後】

✓トランジション・タウン石垣島立ち上げ

・コミュニティ単位で脱炭素を目指すトランジションタウン石垣島を運営

・地域でコンポスト施策を推進、行政からの補助金など

✓サンゴに優しいローカル認証”コラコラ”をスタート

・サンゴに優しいローカル認証制度”コラコラ”をスタート

・地元のオーガニック・有機農家・商店などとの幅広いネットワークを作る

✓沖縄・石垣島から情報発信・イベント企画

・沖縄・石垣島在住という観点から、沖縄・環境保護・気候変動の視点で講演

・沖縄の現状・歴史を伝えるイベント多数企画・講演

実施スケジュール（2024年12月ー2025年4月）

2024年12月　2025年1月　2月　3月　4月

キックオフミーティングの実施

主催啓発セミナー/入門ワークショップ回開催　毎月開催　年間参加者300名（オンラインコース含む）

気候コミュニティアクションリーダー育成
プログラム集中オンライントレーニング
告知・参加者募集

気候コミュニティアクションリーダー育成プログラム
集中オンライントレーニング（9週間）　1月期50名（日本）

全世界のコミュニティオンライントレーニング

1月後半

3月後半

フォーラム
開催

全世界連携型気候コミュニティアクショントレーニング（10週間）の開発・準備

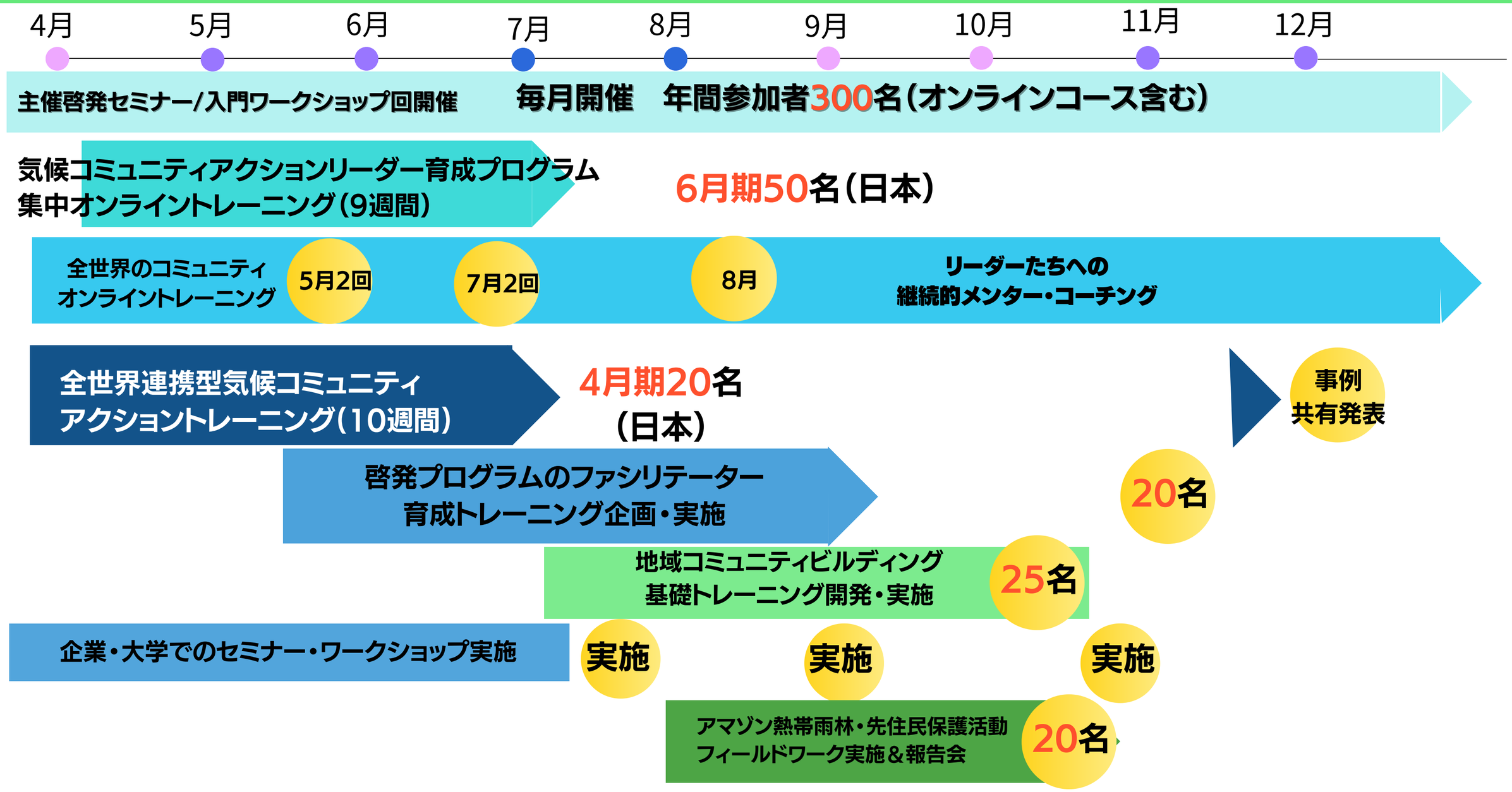
企業・大学でのセミナー・ワークショップ継続実施（毎月定期開催＋3月大学との共催予定）

アマゾン熱帯雨林・先住民保護活動に
関するセミナー・上映会開催

2月
20名

4月
20名

実施スケジュール（2025年4月ー12月）

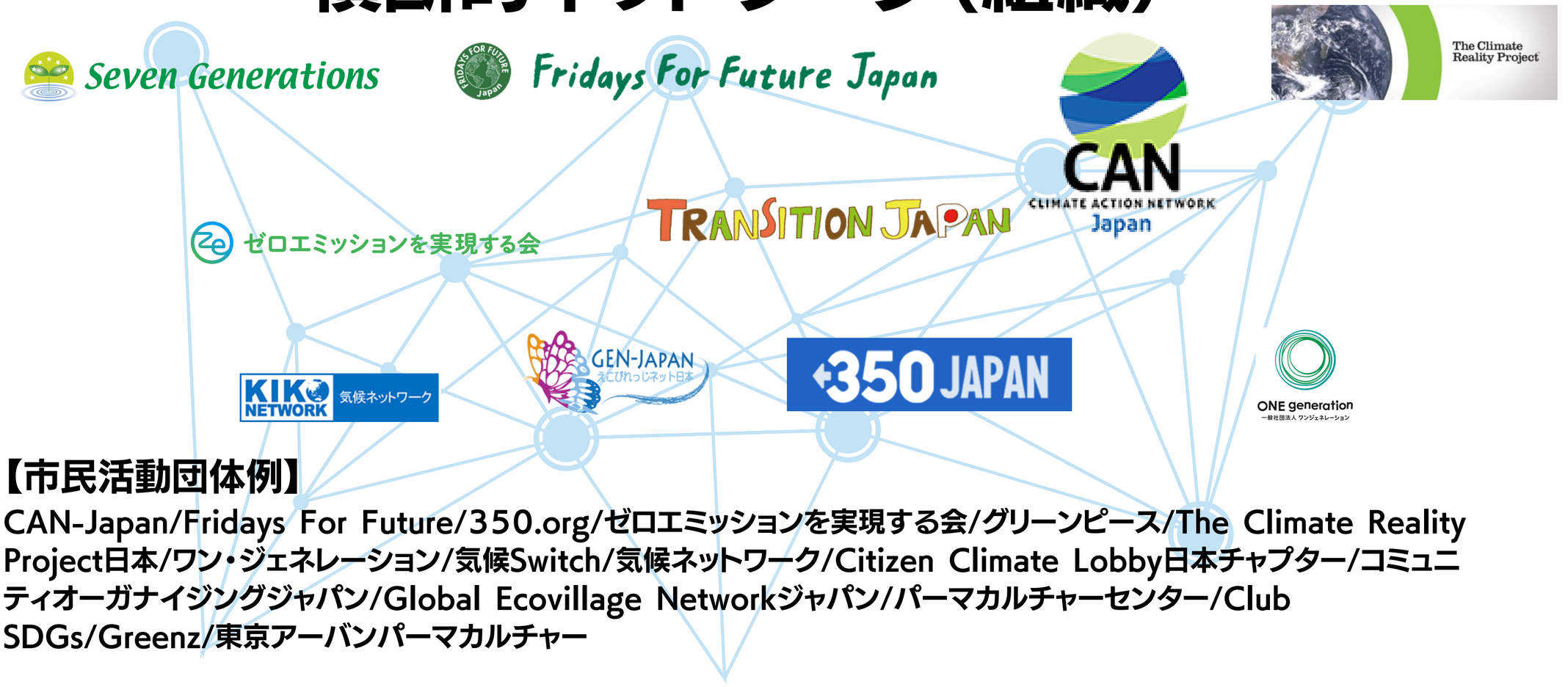


【対組織】

“気候アクション市民団体ネットワーク（CAON）”の拡大・進化・深化

“気候アクション団体ネットワーク（CAON）”とは

気候危機に取り組む国内の市民活動団体の横断的ネットワーク（組織）



【市民活動団体例】

CAN-Japan/Fridays For Future/350.org/ゼロエミッションを実現する会/グリーンピース/The Climate Reality Project日本/ワン・ジェネレーション/気候Switch/気候ネットワーク/Citizen Climate Lobby日本チャプター/コミュニティオーガナイジングジャパン/Global Ecovillage Networkジャパン/パーマカルチャーセンター/Club SDGs/Greenz/東京アーバンパーマカルチャー

コレクティブ・インパクト（社会）

- 連動した動きをすることで、政治や経済、メディア、市民社会へのインパクトを最大化する
- 連携することで、お互いのノウハウや事例を共有しあい、相互協力を推進する

↓

人口の3.5%*（400万人）の意識・行動を変える

*ハーバード大学 Erica Chenoweth氏の研究より

CCACがネットーワークを働きかける意義

▶市民団体が持つ課題

- 個別具体的なアクション中心で、バーンアウトが頻発している
- 同じ志を持ったメンバー同士で集まっているが、人間関係の軋轢が起きやすい
- 信頼や心理的つながり感を築き、維持することに対する意識が薄い

▶CCACが関わることの意義

- 心理的安全性やつながりをもたらす対話の手法やワークを持っている
- 提供しているプログラムに上記ポイントが内在している

↓

- “Being（あり方）”の基盤強化をすること、バーンアウトを防ぎよりよい人間関係を作ることができる
- 自分たちの普段の文化や価値観、考え方を超えたところにあるテーマも話せることで、より効果のある運営、活動ができる
- 団体を超えた関係性を深め、コミュニケーションの質が変化することで、リーダー自身の受援力が高まり、お互いにサポートをし合うための基盤を作ることができる

2024年度ネットワーキングを経て見えてきた課題と今後の取り組み

▶2025年度の取り組み

【ネットワーキングの深化・進化】

フォーラムや横断的つながり、心理的安全性が保たれた場自体がエンパワメントになることが実証されたため継続・強化していく

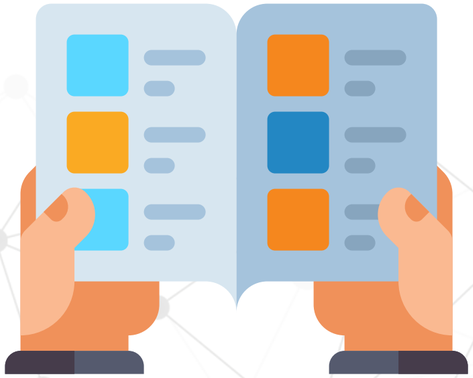
●横断的ネットワークの深化

- 相互にリアルでつながりあえる場である**フォーラムの継続**（年1－2回）
  ＊地方団体・グループとのネットワークも視野に入れる
- 関係性を強固なものとするための**合宿形式の場の企画・運営**を行います（年1回）
- 継続して定期的な**つながりの場をオンライン**で実施（毎月）
- **DEIJの課題への取り組み**をワークショップの場だけではなく、各団体の具体的な対策へとつなげます
- DEIJに関する横断的な規約づくりや具体的なケーススタディを用いた研修プログラムの作成

2024年度ネットワーキングを経て見えてきた課題と今後の取り組み

▶2025年度の取り組み

●横断的ネットワークの進化



◆プロセスのオープンソース化

コンソーシアムを超えたネットワークへのプロセスを含めたノウハウ提供・活用を通じて
さらなるコレクティブインパクトを生み出す

- ネットワーク作り・関係性づくりに用いたノウハウをオープンソース化します（＊）

  ＊ネットワークフォーラムなどで用いたワーク、エクササイズなどのノウハウをどんな団体・人でも活用・提供できるようにまとめてオープンソース化します
- 3年間の取り組みのプロセス・成果・インパクトの内容を総合的・多面的にレポートした冊子を作成（上記オープンソースの内容も含む）
- 各団体へDEIJ・人事・組織開発的側面へのインタビューを継続しておこない、ノウハウや好事例のレポート化をして、こちらも他団体でも活用・提供できるようにします

コンソーシアムメンバー

NPO法人セブン・ジェネレーションズ

野崎安澄
事業執行者
プロジェクトリーダー

桑原康平
事務局・トレーニングプログラム・コミュニティ育成担当

佐藤ゆうこ
事務局長・会計

袋岩尚眼
国際コミュニティ担当

島崎湖／
組織コーチング担当

佐藤扶由夫／
組織コーチング担当

アース・ウィズダム・ジャパン

鈴木核
トレーニングプログラム・フィールドワーク企画担当

鳥谷部愛
トレーニングプログラム・フィールドワーク企画担当

NPO法人トランジション・ジャパン

小山　宮佳江
トレーニングプログラム・国内コミュニティ育成担当

吉田俊郎
トレーニングプログラム・国内コミュニティ育成担当

コンソーシアムメンバー

市民気候ロビージャパン

野田浩平／
団体ネットワーキング担当・メンター・コーチングプログラム担当

NPO　Pachamama Alliance

Aryeh Mary Shell／
Training program and international community buiding

Will Grant／
Training program development

Emily Hittle／
Online program manager